

## 第 21 回

「歴史遺物調査での利用をめざした廉価で可搬性に優れた赤外線画像撮影装置の開発」

杉浦 昌（工学部情報工学科 教授）

「オタク文化の経済学－あなたは「何オタク」ですか？－」

牧 和生（経済学部経済学科 准教授）

開催日時：2022 年 6 月 15 日(水) 15:15-17:15

開催場所：京都橘大学 啓成館 G102

---

### 実施報告

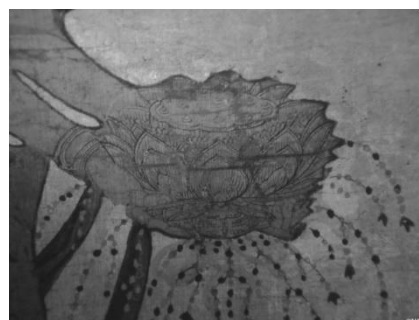
---

歴史遺物調査での利用をめざした廉価で可搬性に優れた赤外線画像撮影装置の開発

杉浦 昌

赤外線を用いると、肉眼では認識できない可視領域外の画像が得られます。これを利用して、退色したり汚れたりした絵画や歴史遺物の墨跡、下書き線などを読み取ることができます。しかし従来、赤外線画像を撮影する機器は高価であり、取り扱いにも注意を要するという問題が存在していました。

これに対し、市販の AV 機器類を改造して赤外線画像撮影装置を安価に実現したことが報告されました。研究のきっかけや予備実験、歴史遺物研究者との意見交換などの経緯などが報告され、実際の開発の手順や、明らかになった求められる要件仕様などについて報告されました。また、実際の歴史遺物の調査に同行して対象物を撮影した結果のサンプル画像と効果もあわせて報告されました。質疑として、今後のより使いやすい装置の開発や歴史遺物調査への本格的な利用、学生教育への利用などについての議論が行われました。



---

オタク文化の経済学—あなたは「何オタク」ですか？—

牧 和生

今回のたちばな研究サロンでは、主にオタク文化を経済学というフィルターを通して研究することの意味について、報告させて頂きました。私がこの研究を始めたきっかけや、これまでの経済学やその関連分野ではサブカルチャーやオタク文化をどのように扱ってきたのか、これまでのオタク文化研究を通じて見えてきたことや課題について、広く説明させて頂きました。

経済学といえば、有限である資源を無駄なく利用し、個人や企業の効用や利潤をいかに最大にするかをベースに研究を進めていくのですが、このオタク文化の研究ではその文化を消費する人々の相互関係に注目することで、文化の誕生や発展のメカニズムを理解できる可能性を有した研究であることを報告させて頂きました。報告の中では具体例として、2次元のキャラクターの誕生日を祝うという文化（遊び）について紹介し、この行動にはどのような心理的な要因が影響しているのかについて説明をさせて頂きました。

質疑応答では、同じ経済学部にも所属する阪本先生からサブカルチャーにおける研究の視点（どの部分に注目して研究をしているのか）についての質問を頂きました。さらに、工学部の東野先生よりオタクの行動を経済学で扱うことは学問的に可能ではないかというご指摘を頂きました。

ご質問にお答えしつつ感じたことは、同じ研究対象であっても研究者によって注目していることが違うという事です。これは研究の面白さであり、このような研究者同士が議論できる場がなければ、なかなか気が付くことができません。

また、経済学も近年における研究の拡がりや高度化に伴い、これまで経済学では説明できなかったいくつもの「アノマリー」が、説明できるようになりつつあります。オタクの行動は経済学で説明できるというご指摘は、まさにこの部分にリンクします。

学会発表さながらの鋭いご質問に加え、報告終了後に当日ご参加頂いた先生方とのやり取りの中でも研究の参考になるヒントが多数ありました。引き続き、オタク文化と経済学との格闘を続けていきたいと思っています。

